

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	・地域の社会資源の一つとして、自覚、地域の方々の生活、文化、風土を尊重し、地域に貢献していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	・理念をより浸透できるように、ホーム行事などで理念を伝えていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・今以上に、地域の病院、公共機関に理念が浸透できるように、理念を掲げてパンフレットなどを置いて頂けるようにしたい。 ・家族会の時などに、理念を取上げ今以上に家族の方々にも認識して頂けるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・施設年間行事を作成する際には、地域の方々が気軽に足を運べる様な工夫をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	・地域の学校や自治会とも、今後交流を持っていきたい。 ・地域の消防団と連携をはかっているように話を進めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・福祉専門学校などと連携を行い、ボランティアや自主実習の受入れを行っている。 ・地域の方々が、介護についての相談を受け入れる準備がある。(他施設等の紹介もできるようにしてある)	○	・これから、多方面からの実習・ボランティアを積極的に受け入れていきたい。 ・地域老人会と交流できるよう、働きかけをしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・初めての外部評価なので、同法人が運営を行っているグループホームの評価を参考にしながら日々サービスの向上に取り組んでいる。	○	・当施設の自己評価、外部評価の結果を受け止め今後のケアに繋がるように取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在、2ヶ月に一度程のペースで開催しサービスの向上について検討し、向上をはかっている。 ・行事やその時の出来事、ケアについて報告・連絡・相談をおこなっている。助言やお手伝いを頂き運営に役立てている。 ・今年の夏祭りも、家族会会長にお手伝いを頂いた。	○	・今後、他施設の運営推進会議の話を聞き、参考にしながらサービスの向上に繋げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護長寿課の担当者の方と、情報交換を行ったり、相談事に乗って頂き日々サービスの向上に反映させている。 ・説明会や研修会には欠かさず参加している。	○	・定期的に各関係機関に出向き、ホームの案内やパンフレット・ホーム新聞などを配布し情報の交換・顔馴染の関係になれるよう努力している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・介護福祉士・社会福祉主事等がいるので、全体会を利用し勉強会をおこなっており、研修などでの理解を深める契機になっている。 ・権利擁護マニュアルを作成しいつでも閲覧出来る所に置いてある。	○	・該当する利用者がおられる時には、すみやかに支援する準備がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はありません。 ・虐待防止マニュアルを作り、職員への理解を求めています。 ・危険を回避する時の拘束が必要な場合は、医師との連携のもと同意書に基づき家族に説明・理解の上、記録に残すようにする体制が出来ている。	○	・今後とも安心・安全に心掛け利用者の立場にたったケアを行うよう全職員に話していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関しては、入所までに何度か自宅や病院、利用されている通所サービスなど訪問し、十分な説明をし、理解・納得してもらっている。又、契約時には運営者、ケアマネよりそれぞれ契約書・重要事項説明書を元に再度くわしく説明を行っている。 ・疑問点は、いつも受け入れ解消できる体制にしている。	○	・今後とも、入所契約時には十分に説明し納得した上で同意していただき契約できるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホームの玄関に苦情相談ポストを設置している。 ・日常の利用者の苦情に対しては、いつでも対応出来るようにしている。 ・家族と外出した際の話聞き、対応している。	○	・今後、市から介護相談員を受け入れて利用者の話を聞いて頂ける様にしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・「くるみ通信」を2ヶ月に1度のペースで発行し行事や生活についての報告を行っている。 ・家族が来所された時には、常に状況報告をおこなっている。 ・緊急時には、電話にて連絡をしている。	○	・「くるみ通信」を今以上に充実させ、一人ひとりの利用者の状況のコメントを入れ密に家族への状況報告をしていきたい。 ・利用者は家族面会が多いので、その機会を利用し、施設が家族と話をする時間を多くとりたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書の中と玄関に、相談・苦情窓口を明示している。 ・家族がホームに立ち寄った際には、管理者・計画作成担当者・運営者が話をよく聞いている。	○	・今後、市からの介護相談員を受け入れし、利用者・家族の相談にのっていただきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・運営に関しても、意見や提案を聞く様努めている。職員の意見も具体的に実践に反映している。 ・全体会でも、職員の意見を聞き、検討し、反映している。	○	・職員一人ひとりの声が反映できるように、面接など意見が言いやすい環境づくりを心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・勤務表作成時には、あらかじめ職員の希望を聞き出来るだけ希望に沿った勤務表を作成している。 ・柔軟な対応が出来るように、人員や時間帯に余裕を持って勤務表を作成している。	○	・非常災害や不測の事態に対し運営者と近隣職員がすぐに対応出来る環境にしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職される時には、新しい職員を前もって配置し全職員と同じ勤務に入って頂き、引継ぎを行いダメージを防ぐようにしている。 ・現状、異動はないが急に行うのではなく、前もって説明し事前勤務や移動後の職員紹介をするなどの配慮をする準備がある。	○	・今後も、利用者の心理的障害を最小限にできる配慮をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・他施設と連携をはかり、職員の研修などを行っている。 ・研修において、受講資格のある職員は積極的に受講して頂き、全体会にて研修報告を行っている。 ・担当者会議を活用し、利用者の介護を通して日々トレーニングを行っている。	○	・今後とも、研修の機会を増やしていきたい。 ・職員の研修計画や研修履歴など作成し、今後に活かしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協議会・介護支援専門員連絡協議会に常に参加し、他施設の方々と交流の場を広げるようにしている。また、外部施設と施設交流をさせて頂き職員同士が情報交換をおこなっている。 ・同業者の方々が、気軽に施設見学をしやすいようにし情報交換と交流を行っている。	○	・今後とも、研修の機会を増やしていきたい。 ・同業者と連絡を密にし、施設サービスの向上に役立てていきたい。 ・今後も、見学希望者がいたときには、積極的に受け入れていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・休憩室には冷暖房を完備し音響設備を置くことでリラックスして頂いている。 ・悩み事など、社長・施設長・事務長に相談がしやすい環境を作っている。	○	・今後ともに、職員が働きやすい環境作りを考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・常に社長・施設長・事務長は職員と話をし、感謝と激励の声掛けを欠かさないようにしている。 ・実務経験・受験資格がある職員に対しては、資格取得を進めている。	○	・今後、職員一人ひとりと個別の面談を行い、話を聞いていきたい。 ・職員の業務上の有益な提案に対しては積極的に取り入れる体制にしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・見学の段階から、可能であれば一緒に見学に来て頂いている。 ・入所前の面接で、利用者本人に困っていることを聞くようにしている。本人から情報が難しい場合は、家族・利用施設、担当ケアマネジャーから話を詳細に聞いている。 ・家族と話あってホームの入所の意向を一致出来るよう支援している。	○	・今後とも、見学・面接をおこない安心した生活を導入できるようにしたい。 ・本人の話に傾聴し、十分に観察し不安や求めていることをキャッチしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族と何度も会い、困っていること・不安なことなど希望を聞きホームとして対応が出来ることを話をさせて頂いている。 ・入所の意向が固まったら、入所前に契約に来所いただき、時間をかけて話しあっている。	○	・見学の段階から、ケアマネ・運営者が話をしている。 ・入所された際には、家族会に入会して頂き利用者家族同士で話がしやすい環境を作り、密に家族と情報交換を行うことで家族の気持ちを受け入れるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・介護サービスを利用された事のない方には、介護サービスについての話をした上で近くの在宅支援センターを紹介している。 ・家族の話を聞き、緊急性や希望されている内容に応じて、適切なサービスや施設紹介をしている。	○	・今後とも、当事業所だけで抱えこまないようにしていきたい。 ・本人と家族が不安を解消するような支援をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所時に本人と家族に来所して頂き、ホームの雰囲気等に触れてもらい徐々に慣れて頂けるように工夫している。 ・個人の情報を職員が共有し、まず本人が生活に馴染むことを基本に見守り観察を行っている。 ・家族の面会等、自由に行っている。 ・他の利用者に紹介したり、職員と一緒に行動している。	○	・入所始めは、食事の好き嫌いや摂取量等を家族や本人に聞き取りをして配慮している。 ・排泄や睡眠等もよく観察リズムが整うように努力している。 ・入所された時には、本人の気持ちを考え場合によっては家族に協力をお願いし安心していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者本人の特技や趣味等を探り、他の利用者も職員も混えて教えてもらったりしている。(料理・編み物・スケッチ・粘土等) ・ティータイム等、テーブルに一同して同じテーマ(その時のTVや新聞の話題)で話あったり、関連した個人の経験談を話してもらい共感したり賛同しあったりしている。	○	・今後も一人ひとりの可能性を見出し楽しい時間が共有できるように努力していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・入居時に、家族の協力をえることで、利用者の生活がより豊になることを話している。 ・入居者の介護に苦慮したり、体調不良時等家族に電話したり来所してもらい、協力して頂いている。	○	・年間行事に参加を呼びかけ、本人・家族・職員が楽しい時間を共有している。 ・年末年始、お盆など家族が集まる際には、外泊・外出を積極的に呼びかけ、支援協力している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時間等の制限を設けずに自由に面会して頂いている。家族水入らずの時間が持てるよう居室に、椅子やテーブル・お茶を用意し本人との関係が築けるように支援している。 ・常に、面会時等に情報交換をして家族と利用者の意向を聞いている。	○	・面会の少ない家族に対しては、呼びかけをしている。年間の行事は家族の参加協力も多く楽しい時間を共有している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族とドライブにいかれた際には、お墓参りをしたり、友人宅に訪問したりしている。 ・友人や隣近所の方々の面会時には、快いもてなしを援助している。 ・心よく迎えてお茶を出して自室でゆっくり過ごされるように配慮している。	○	・今後は、馴染みの人等に近況を知らせられるような手紙やハガキを出せるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士が良い関係が築けるように、座席の配置等考慮に入れた配置をしている。 ・昼間は、全員がホールが活動の場であり職員と共に過ごしている。 ・他の利用者のお世話が好きな人も居るので安全を確認しながら、見守っている。	○	・ソファーに座る位置も配慮して調整するようにしている。 ・今後も、良い人間関係が築けるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所時本人家族の意向を尊重して、施設やケアマネを紹介して情報交換をしている。 ・退所された利用者の家族が、よく訪ねてこられている。	○	・退所された利用者の家族とも連絡を取り、本人の状況を伺ったりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・家族には、入所時やプラン変更時等必ず希望を聞くことにしている。 ・本人には、理解の程度にあわせて聞いたり、日々の生活の中での発言や行動からキャッチするようにしている。	○	・利用者との会話の中で得た情報を、全体会などで検討し、意志の統一をはかっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・必ず入所前に情報を入手し事前に職員に開示し把握している。 ・入居後生活の中で本人や家族等からの情報をうかがい追加してしている。	○	・常に利用者の生活歴や、性格を意識した介護をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者本人にとって、絶対にやってはいけないことの注意点を把握する。 ・入所前のケアマネや病院等から情報を頂き参考にしていく。 ・日々の生活の中で、サービスを提供しながらその反応など含めて客観的に判断できるようにしている。	○	・個別にサービスの向上がはかれるよう、暮らし・心身状態、能力の分析をすすめ、介護計画により個別的に反映できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居者の情報や観察した現状を本人家族の要望を入れてアセスメント→プラン作成→担当者会議をしてケアプラン作成の手順で行なっている。	○	・常にチームでの業務であることを念頭に情報の共有ができるよう介護計画の見やすさ、使いやすさを追求していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月1回の担当者会議及びその都度の打ち合わせでケア検討会を行っている。プランの修正しすばやく周知できるようにしている。 ・実施は、申し送り簿に記入して介護が継続されるようにしている。	○	・家族との連携を密にして、介護計画の見直しの場合には、すぐに意見が現状に反映できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録と実践は、全員が取り組むことなので介護サービスが連綿として円滑に行われるよう、職員の連携を密にしている。特に夜間の状態を充分に読み取るようにしている。	○	・状況に応じて個別記録を、全職員で検討・分析し介護計画をみなおすようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・日課や行事など、天候や不測の事態に小規模なりの柔軟な対応ができています。医療的なこと、ターミナルケアの考え方など家族会や運営推進会議などを利用し、また家族への個別訪問や個別ケアを密にして柔軟で適切な支援をしている。	○	・家族間の調整をすることも多く、地域性や地域社会資源も利用し、全職員的に対応しているので、この体制を維持向上していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員は、運営推進会議への出席及び情報の交換を行う。 ・ボランティアについて、音楽、行事の支援ボランティアの受入れをしている。 ・警察、消防などの各機関に消防訓練や防犯訓練に来てもらっている。 ・文化・教育などの公共機関の利用を進めている。	○	・台風・地震などの災害時には、地域の方々受け入れに対して支援する体制にしている。 ・公民館活動などに参加するようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・介護支援専門員連絡協議会や研修会などに積極的に参加し、情報の収集や交換を行っている。 ・利用者の心身の状態や変化に応じて家族と相談し、他の施設と情報交換をしている。	○	・本人・家族からの要望に応じて他のサービスの説明・紹介をしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議の案内・利用者の紹介など情報の交換などを行っている。 ・くるみ通信を発行した際には、届けて近況を報告し協力を得ている。	○	・今後もより密接に地域の包括支援センターと情報交換をし、サービスの向上に役立てていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族の希望される医師へ受診されている。 ・往診も依頼している(内科、歯科) ・いずれの医師への受診時も情報提供しており、状況によっては書類などで確実に指導を仰ぐことがある。	○	・主治医と密に電話やFAX情報交換をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・認知症に関する神経内科医の往診に対しては、前もって電話やFAXなどで情報を交換し、よりよい状況の把握ができ、ひいては医師との信頼関係も築けている。	○	・認知症研修を受けられた医師であるか確認し、高齢者医療と福祉の連携を今後とも強くしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護師を2名配置しているので、すばやく対応できている。常時情報や意見交換を行っている。 ・協力医療機関や各関係機関と情報を共有しよりよい医療の共同体制が出来ている。	○	・医療と福祉の連携を深めよりよい、介護体制を築きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時は、職員が見舞いに出向き、病院職員と情報交換をしている。 ・医療のケースワーカーや家族と連絡を密にとり状況を把握しており、早期退院を目指す体制が出来ている。	○	・入退院の手続きや、受入れが円滑であるようホームでの体制が整えてある。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した時の方針を決め、家族と話し合い、その同意書をもっている。 ・入居時に、家族に直接例を挙げて説明している。	○	・家族会の際に、重度化や終末期に向けた方針について話し合い、理解をして頂いている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・当ホームでは、重度化や終末期に対応する施設機能がないので、早目の施設移動を含め、ネクスト・ステージへの対応を円滑に出来る様にしている。	○	・今後もケースごとに状況に応じて、家族、主治医とも話し合いを重ねて体制を強化していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人や家族の意向を尊重し利用者の状況や、意向に添って、心身のダメージを極力少なくするように施設や他の社会資源を紹介するなどの体制にしている。	○	・研修や実践を通して、住みかえのダメージ防止を職員全体で取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入所時に、絶対これだけは言っていて欲しくないこと、して欲しくない事を家族に確認している。 ・個人情報、事務所の施錠できるところに厳重に保管している。 ・職員の守秘義務を徹底させ、その意識を高めるようにしている。	○	・今後も、プライバシーと守秘義務については職員の意識の向上を図っていきたい。 ・日頃の言葉かけや介護に関して聞き苦しいことがあればその場での指導(働きながらトレーニング)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・行動や言葉かけはゆっくり、早い動作には付いていけないので「間」をおいて誘導している。 ・本人の気持ちに汲みとれるよう観察を怠らないようにし、サインを見逃さず傾聴するようにしている。 ・わかる力に合わせてゆっくり時間をかけて説明し本人の自己決定を気長に持つケアをしている。	○	・これからも一人ひとりをよく観察し本人のホームでの生活の満足度を高めていきたい。 ・利用者と職員のふれ合いの時間を多く持ち信頼関係の中で何でも話して貰えるように努めていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の体調や睡眠等を観察し一人ひとりのペースに配慮し待つというケアも大切にしている。 ・その利用者に応じた、ペースで食事時間・入浴時間の調整など、毎日の暮らしをゆっくりと過ごして貰えるようにしている。趣味や運動などその人が満足するように支援している。	○	・レクリエーション等で、希望に沿ったものを取り入れている。 ・何かやりたいことはないか、いつも聞いてから行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・好みの美容店を利用している。 ・鏡が利用できるよう環境を整えている。 ・常に、身だしなみや適切な服装を着用するよう支援している。特に髭剃り・化粧については本人の希望に沿うようにしている。	○	・身だしなみやおしゃれに関しては、朝の更衣の時に本人の意向を確認し支援している。 ・髭剃りは毎日、化粧は要望があった時や行事の時に行っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・女性入所者が多いので手伝ってもらっている。食事作り、食後の食器を重ねたり、お盆やテーブル拭きをしている。 ・季節ごとの旬の食材を使い、それを話題にしている。 ・一人ひとりの好き嫌い等は本人に尋ねたり家族からの情報で把握し、メニューによって嫌いな物は他の食材に代えたり、料理法を工夫している。	○	・料理や片付けは声掛けを行い、その日によって参加・不参加は自由にしてもらっている。 ・毎回食事の時間は、クラシック音楽を流したり、その時のメニューの話題を投げかけたり楽しい雰囲気作りに努力している。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・10時、3時のお茶の時は、飲みたい物を一人ひとり尋ねたり、コーヒー・紅茶・ココア他その日、その時に飲みたい物を提供し満足が得られるように支援している。 ・たばこ、お酒の要望はない。 ・おやつ等、甘い物が好物である。	○	・お酒、たばこに関しては今のところ、要望はないが、要望があった場合には健康状態に配慮しながら支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレで排泄できるよう、一人ひとり排泄パターンを把握し声掛けや誘導・介助を行っている。ウォシュレット使用。 ・便意・尿意のある人は、オムツ除去して綿パンツにしている。	○	・各トイレにチェック表を用意し排尿・排便パターンの観察をおこない健康管理に努力している。 ・夜間帯もコールマットを使用し安全に配慮し誘導介助をおこなっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・計画的に入浴しているが、本人の体調と意向により柔軟に対応している。 ・入浴の声掛けには、笑顔で答え喜んで頂いている。又個別の入浴をゆっくり楽しんでいる。 ・入浴剤を使用することもある。	○	・着替えの準備も、利用者専用の籠を用意出来る方にお願ひし、難しい方にはお手伝いをしている。 ・本人の能力やペースに合わせて支援をおこなっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼食後、居室にて休まれている利用者については、生活のリズムを崩さない程度で声かけをおこなっている。 ・ベットメイキングは毎朝行う。 ・寝具干しも定期的に行なっている。	○	・定期的に、シーツの洗濯や、布団干しを行い清潔な空間作りを心掛けている。 ・冬場は、アンカを使用予定。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・季節によって散歩に出掛けたり庭に出たりして気晴らしの支援をしている ・毎日の家事・掃除・洗濯等と一緒に参加してもらい、話をしながら出来る事を楽しくをおこなえるようにしている。	○	・レクリエーションでは、その人に合った楽しみごとを見極めながら編物や歌やゲーム等を職員と一緒に楽しんでいる。 ・今後も利用者の可能性を探りながら色々な事を積極的に取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は、家族の依頼により事務所で預かっている。いつでも使えるということを理解して頂くとともに安心感を持って頂き安心して生活をされている。	○	・今後は、食材や本人の欲しい物等、一緒に買物に出掛けるなど社会機能維持に努力していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との外出は制限なし。入所者の会話の中でよく使われる場所を家族に伝えている。 ・その日の体調や体力に考慮しながら、付近の散歩や神社参りを支援している。芝生を利用しておやつやおしゃべりをしている。 ・他ホームとの定期的な交流、ドライブもかねて行なっている。	○	・今後とも継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族の支援で墓参りや美容室等に出掛けている。 ・他ホームと交流会を楽しんで頂いている。 ・花見のシーズンを利用している。	○	・今後も一人ひとりの要望をよく汲みとり家族とも協力しながら外出できるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙に関しては本人宛に届いた物は、手渡ししている。 ・自分から電話を掛けられる利用者には支援している。 ・外からの電話があった場合は、直接話してもらっている。	○	・これから、年賀状の季節なので支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・特に面会時間は設けておらず、いつでも面会できるようになっている。 ・家族や友人の面会時には、居室に椅子やテーブルを用意し、お茶を提供してゆっくり過ごして頂いている。	○	・年間の行事にも参加して頂き家族と楽しい時間が持てるように支援している。 ・面会の少ない家族には連絡を取ってなるべく面会に来て頂けるように働きかけていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はない。 ・緊急の場合の身体拘束について、家族の同意は頂いている。 ・職員全員に身体拘束廃止マニュアルを読んでもらっている。	○	・今後も拘束しない介護に取り組み、意識を高め続けたい。 ・研修にも参加していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中玄関に鍵をしていない。 ・帰宅願望の強い人がいた場合には、人感センサー等の活用で、安全確認をしている。 ・職員が利用者の行動パターンを常に把握し、見守りがしやすいように考慮している。 ・昼間は窓を開け、換気に気を付けている。	○	・今後も鍵は掛けないようにし、見守りを重視するケアに取り組んでいきたい。 ・今後もケースごとに、その時々に応じて検討を重ねていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常に職員は、入居者を視野に入れておく意識の習慣化をしている。 ・職員間の連絡を密にして安全確認をしている。 ・特に夜間は見守りが確実に確認できる場所夜勤を行っている。	○	・夜間帯において転倒が予測される利用者にかんしては、コールマットも使用している。 ・昼間はホール内ですごされているので、見守りができている。 ・夜間も見守りしやすい場所で待機している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの行動パターンを把握し見守りを重視して危険を防ぐ取り組みをしている。 ・物品の保管は鍵の掛る場所に収納している。在庫に関しては、在庫表を作成しチェックしている。 ・異食行動が活発である利用者については、そばで見守りをしているため、早期対処できている。	○	・夜間は、洗剤・包丁・鋏等は鍵の掛かる場所に収納し施錠している。又、毎日の業務日誌に施錠確認を記入している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの身体状況や行動をよく把握した上で、ホールに必ず職員を配置して見守りを怠らないようにしている。 ・誤薬のないよう毎回担当者を決めて与薬している。 ・転倒事故が2名おきてしまった。事故分析をしっかり行い、センサー等を使用し、再発防止に努めている。	○	・火災防止のため入所の折に居室にマッチ・ライター等の持ち込まないように家族に理解していただいている。 ・夜間は転倒防止の為、コールマットを使用したり時間を決めて巡視を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時には、協力医療機関と連携をはかり対応できるように準備がある。職員は、看護師2名・応急手当普及員3名を配置し全体会などで勉強会を行い、急変時、事故発生時の訓練を定期的に行っている。 ・マニュアルを作成し、見やすいところに置いている。 ・緊急連絡場所が明示してある。	○	・今後とも、定期的に訓練を行うとともに応急手当普及員の更新や、普通救命講習の受講を進めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防火管理者を配置し、火災通報装置やIH調理器を設置した。 ・定期的に火災訓練・避難訓練などを計画実施している。 ・ハザードマップを用いて、全体会にて確認をおこなっている。 ・交番・消防署から、実施指導が受けられるようにしている。	○	・災害時の避難訓練を地域の消防団や家族会にも声かけ、協力を維持していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・入所時のリスクに関する説明を行ない、理解してもらっている。全てのリスクで強い行動制限はしないことなども同様に理解して貰っている。 ・問題が発生したときは、利用者と家族の意見を大事にして、解決できるよう努めている。	○	・家族と話し合い、施設として安全・安心な暮らしができるよう常に努めている。 ・あらゆるリスクを想定し、常時確認しリスクのないことを家族に説明できるよう環境改善に努めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタル測定、排便、排尿のチェック、異常時は看護師に連絡、必要時主治医や家族等に連絡し対応している。	○	・これからも継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤情報は毎回綴じて参考にしてしている。 ・新しい薬の開始時は、申し送りで副作用等に気をつけている。 ・状態の記録を残している ・薬についての研修を定期的に行っており、今までに誤薬などない。	○	・これからも継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・3日以上は便秘しないようにチェックし、排便コントロールをしている。 ・食事には、繊維の多い野菜や乳製品を取り入れ、日々、便秘の予防を心がけている。 ・毎日、室内歩行や季節によって散歩などをして、体をうごかすことをつづけている。	○	・これからも継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後は、歯磨き・うがい・口腔内の確認をし、介助し支援している。 ・夜は義歯の消毒(ポリデント)に対応し口腔清潔を心掛けている。 ・食前には、口腔体操や唾液腺マッサージを行っている。	○	・清潔保持、健康増進の意識を高める研修に参加する。 ・定期的な歯科医師による、口腔ケアの支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・残食はほとんどない。定期的に体重測定を行っているが、大きな増減はみられない。 ・採血の結果、栄養状態も良好である。	○	・これからも継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・手洗いうがいの徹底。 ・入浴時の皮膚の観察。 ・寝具の清潔保持の徹底。 ・インフルエンザの予防接種。	○	・肺炎球菌ワクチンを家族の了解のもと進めていきたい。 ・毎年、利用者・職員ともインフルエンザ予防接種を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日の食器は、洗浄機により、清潔に保たれている。 ・夕食後、まな板・包丁・布巾等の消毒を行っている。 ・地域の商店から新鮮な食材を配達してもらっている。 ・夏場は、生ものを止めて、できるだけ火を通した物を提供している。 ・料理を作る量は、一回かぎりで残らないような量の調理をしている。	○	・安全な調理と取扱いに心がけており、これを維持・向上出来るよう研修なども積極的に参加したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りにプランターなどに花を庭には、くるみの木を植え芝生をはり、親しみやすい環境にしている。 ・玄関や裏口から車椅子での出入りができる施設構造であり、また周囲を整備し安心・安全な施設であるようにしている。	○	・菜の花や、桜が植えてあるので春が楽しみである。 ・地域の方に、ホーム玄関前で畑を作って頂いてる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食事・10時のお茶、15時のおやつ時には、リビング内にふさわしい音楽を流し、テーブル上にも散歩時に採った花や季節の花や実をかざり話題にしている。 ・フロアー・廊下には、天井からやさしい光が入るようにしている。 ・リビング・フロアー・居室の窓は、大きくとり風通しもよくホームにいても季節を感じれるようにしている。	○	・四季の雰囲気を感じて頂けるよう、今後も環境作りに努力していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングやホールにいろいろな座りやすいソファや椅子を配置し、体調にあわせて使用している。 ・居室が自由に出入りが出来るので、利用者同士で話を楽しまれている方が多くいる。 ・好みのテレビ鑑賞が出来る様に、テレビを2台用意している。	○	・居室が常に清潔で明るくなるように、清掃や窓の開閉時間など常に配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭から使い慣れたダンス・椅子・カレンダー・写真を持ち込まれている。 ・居室前廊下には、利用者の作品などを掲示している。	○	・今後、家族や利用者の了解の元若い頃の写真・家族の写真を居室、廊下掲示板に掲示していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・ホーム全体にエアコンで温度調整がされている。温度計・湿度計を使い室温管理に気を付けている。 ・換気についても、利用者の状態を考慮しながら必ず行っている。・暖房を使用する際は、必ず加湿器を使用し健康管理に気を付けている。	○	・気になる臭いはないが、今後とも消臭に気をつけたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内には、フローア・廊下・トイレ・浴室など生活のスペースに手スリを設置している。車椅子などを使用することを考慮し十分なスペース作りをしている。 ・洗面道具・靴箱など利用者が、出来る限り自立して取り出し使用できる様に考慮している。	○	・日々、使いがってなどを確認しながら点検している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレはわかりやすいように表示がしてある。 ・家庭で使われていた、ダンス・椅子などを持ち込まれ、レクリエーションで一緒に作成した粘土細工を表札にしている。 ・いつも使う、トイレ、洗面所はホールの真中で使いやすい所にある。居室スペースの真中の使いやすい所に設置している。	○	・これからも、一人ひとりの残存機能に応じた支援をしていき、自立生活に向けた取り組みを心掛けていきたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダには、ベンチを置き寛げるようにしている。 ・中庭には、芝生をはり天候のよい時には外にて日光浴・気分転換をおこなっている。	○	・今後、利用者・家族・職員で畑をつくり栽培から収穫までおこないたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の
		☐ ②利用者の2/3くらいの
		☐ ③利用者の1/3くらいの
		☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある
		☐ ②数日に1回程度ある
		☐ ③たまにある
		☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と
		☐ ②家族の2/3くらいと
		☐ ③家族の1/3くらいと
		☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・時間がゆっくりと流れ、一人ひとりの利用者の笑顔が見られる。
- ・全職員がそれぞれに利用者の状況を把握しながら介護をしている。
- ・毎日、午前・午後と下肢筋力低下防止の為、個別に歩行訓練やリズム体操を施行し筋力を鍛えている
- ・食前に、嚥下体操を行っている。
- ・その人なりの自立への援助。(オムツ除去、清潔保持、移動等)
- ・良いことは、すぐに実施できる施設である。
- ・毎日の食事に新鮮な食材を使用し、バランスの良い食事を提供している。
- ・毎日の食事作りを毎日違う職員が担当し、それぞれ得意料理や持ち味を発揮している。
- ・利用者の方々と職員と一緒に、料理・洗濯・掃除を行っている。